

小学校における45分授業と関連させた英語の短時間学習のあり方について

三重県教育委員会事務局
研修推進課 教科等研修班
研修員 坂倉 豪

I 研究の目的

新学習指導要領において、小学校高学年で外国語科が導入され、授業時数35単位時間が増加することになった。本研究の目的は、小学校外国語科において、45分授業と関連させた短時間学習のあり方について提案するものである。そこで、「短時間学習を含めた単元指導計画モデル」を作成する。次に、作成したモデルを参考にして短時間学習指導案を作成し、実践推進校で実践してもらう。そして、アンケート結果をもとに、「どのような活動を行うべきか」「どのように45分授業と関連させるか」について考察を行う。

II 研究の内容

1 短時間学習とは

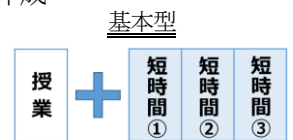
ICT等も活用しながら、10～15分程度の短い時間を単位として繰り返し教科指導を行う学習である。

出典：「外国語ワーキンググループにおける審議のとりまとめ」 pp.12-13 文部科学省（2016）

2 短時間学習を取り入れた単元指導計画モデルについて（資料1）

6年生新教材『We Can ②』Unit 5 My Summer Vacation「夏休みの思い出」で作成

- 基本型 \longrightarrow 45分授業1時間に対して15分の短時間学習3回
45分授業で学んだことを繰り返し「復習」する



短時間学習で「復習」→定着を図る

- 8単位時間の単元 \longrightarrow 45分授業 × 4時間 + 15分の短時間学習 × 12回

* 5年生新教材『We Can ①』Unit 5 She can run fast. He can jump high. 「できること」
(資料2)でも作成

3 実践推進校での短時間学習指導案に基づく授業実践（資料3）

四日市市教育委員会の平成29年度第1回小学校英語教育推進委員会で指導案を提案し、各実践推進校で授業実践をしてもらった。

学校数：12校

実施時期：9月26日（火）～11月6日（月）の5日間

実施時間：1限目の前の15分間

実施学年：第5・6学年

4 結果

- 短時間学習でインプットとアウトプットを意識して、「聞くこと」の活動と「やり取り」の活動の練習を繰り返し行うことで、語句や表現に慣れ親しみ、関心・意欲も高めることができた。
- 短時間学習を45分授業の「復習」として繰り返し行うことで、短い時間でも児童が英語に触れる機会が増え、語句や表現に慣れ親しむことができた。

Ⅲ 考察

1 短時間学習について

- (1) 短時間学習の内容では、インプットとアウトプットを意識して、「聞くこと」の活動と「やり取り」の活動の練習を行うことが効果的であった。特に、「やり取り」の活動の練習を繰り返し行うことで、児童は語句や表現に慣れ親しむことができた。「やり取り」の活動の練習では、反復練習である「コミュニケーションの土台を作る練習」と、答えを考えながら発話する「コミュニケーションの練習」の組み合わせとそのバランスを考えることが重要である。
- (2) 短時間学習により、子どもたちの英語に触れる機会が増え、語句や表現に慣れ親しむことができた。また、「朝の英語学習で、以前に学んだことを思い出すことができましたか」という設問に対して、93%の児童が肯定的な回答をしている。「短時間学習を取り入れた単元指導計画モデル」のように、45分授業と短時間学習を連続させる形での実践は行えなかったが、短時間学習が子どもたちにとって英語に慣れ親しみ、45分授業の復習として一定の効果があることが検証できた。

2 短時間学習を取り入れた単元指導計画モデルの修正

移行期間に対応して、8単位時間扱いで作成した「短時間学習を取り入れた単元指導計画モデル」を4単位時間扱いにして、「短時間学習を取り入れた単元指導計画モデル2」を作成した。これは移行期間において、各学校での取組に充分参考になると考える。

- ・ 4単位時間の単元 ➡ 45分授業×3時間+15分の短時間学習×3回 (『We Can ②』Unit 5) (資料4)

3 短時間学習の活動の紹介 (資料6)

短時間学習で実践できる活動を紹介する。「準備物が少ない」「一事項あたりの活動時間が短い」「応用・発展が可能」であることに留意の上、検討を進めた。

- | | | |
|------------|------------------------|---------|
| ・ フラッシュカード | ・ キーワードゲーム (キーフレーズゲーム) | ・ ペアトーク |
| ・ マイムゲーム | ・ Who Am I? ゲーム | |

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 「短時間学習を取り入れた単元指導計画モデル」「短時間学習を取り入れた単元指導計画モデル2」の作成
- (2) 短時間学習の活動内容 ➡ インプットとアウトプットを意識して、「聞くこと」の活動と「やり取り」の活動の練習を行うことが効果的である。特に、「やり取り」の活動の練習を繰り返すことで、英語を使うことに慣れ、関心・意欲が高まる。
- (3) 短時間学習を45分授業の内容を繰り返し学習する「復習」と位置付ける
➡ 何度も繰り返し学習することで、語句や表現の定着が進む。

2 課題

- (1) 45分授業と短時間学習の関連 ➡ 内容面での関連として「復習」は有効である。今後、さらに関連の有効性を研究していきたい。
- (2) 短時間学習の時間設定 ➡ 各学校の実態に応じて、時間設定を考えていく必要がある。